

鋼構造委員会「高力ボルト摩擦接合の設計およびそれを用いた鋼部材の補修・補強に関する調査研究小委員会」委員募集

鋼構造委員会では、以下の研究小委員会を新たに設置します。本小委員会に参加いただける方々を公募します。なお、本小委員会の活動のための旅費等は支給されません。

1. 委員会名称

高力ボルト摩擦接合の設計およびそれを用いた鋼部材の補修・補強に関する調査研究小委員会

2. 委員長および幹事長候補者

(委員長) 大阪市立大学 教授 山口隆司

(幹事長) 川田工業(株) 小笠原照夫

(幹事) 委員から選出

(委員) 公募による

3. 設立趣旨

鋼部材の補修、補強において、新たな部材との連結や当て板の追加など高力ボルト摩擦接合が使われることが多い。このような継手や当て板による高力ボルト摩擦接合を用いた鋼部材の補修・補強技術を確立するためには、高力ボルト摩擦接合の限界状態（使用、終局など）を整理し、それを適切に照査する方法を確立すること、また、その照査を成立させるための施工上の前提条件などを明らかにすることが必要である。これまで継手のすべり限界を対象として研究は多くなされてきたが、その終局限界状態を対象とした研究や当て板を対象とした研究は多くはなされていないのが現状である。

したがって、本調査研究小委員会では、高力ボルト摩擦接合を用いた継手および当て板の補修・補強設計および施工の現状を海外基準も参照し、整理する。その際、限界状態設計法での照査を踏まえ、照査法についても整理する。そして、これらの成果をもとに、高力ボルト摩擦接合を用いた補修・補強に関する設計・施工・維持管理ガイドラインを作成する。なお、ガイドラインには、設計、施工、維持管理の事例を多く掲載し、その価値を高めたい。

4. 調査研究内容

- ・高力ボルト摩擦接合継手および当て板の限界状態とその照査法に関する検討

要求性能に応じた照査体系の整理

補修・補強の点から、新設部材とは異なる照査体系を確立する。

- ・高力ボルト摩擦接合継手および当て板による補修・補強の現状および事例の整理

腐食した高力ボルト継手の取替検討

当て板補修の設計・施工法に関する検討 など

- ・新技術の現状整理

(例えば、超高強度ボルト、接触面処理による高摩擦化、接着剤併用接合などの新技術)

5. 成果のまとめと活用

- ・成果は「ガイドライン」としてまとめ、実務への参考資料とする.
- ・設計例, 施工例も多く紹介する.
- ・将来的には, 鋼・合成構造標準示方書〔設計編〕〔維持管理編〕等にも取り込むことも想定

6. 活動方法および活動期間

- ・年4回程度の委員会、および各WG活動
- ・活動期間2年間(2017年9月～2019年8月)

7. 応募の方法

本委員会に委員として参加を希望される方は、1)氏名、2)所属、3)連絡先(住所、電話番号、E-mailアドレス)、4)興味のある検討項目等を、下記応募先までE-mailにてご連絡ください。

公募の締め切りは7月31日(月)とします。

<応募先・問い合わせ先>

川田工業(株) 小笠原 照夫(幹事長)

E-mail: teru.ogasawara@kawada.co.jp

(以上)